HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Hokkaido University International Symposium on Sustainable Development 2006 : Report
Issue Date	2017-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/65161
Type	report
File Information	32_chapter-2.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

2. Sustainability Science Forum


TOKYO
8月5日(土)東京開催
北海道大学サステナビリティー・サイエンス・フォーラム
DO 科学
人類と地球環境の明日
―北の森から、北の海から―
SAPPORO
8月6日(日)札幌開催

8月5日(土)東京開催 ■会場:有楽町朝日ホール

TOKYO

参加無料

【午前の部】 午前10時30分～(開場午前10時)

北大プレゼンテーション「環境技術が開くサステナビリティー」

1 主催者挨拶　北海道大学　中村睦男総長

2 基調講演:「環境技術のフロンティア」
講　師:鈴木基之氏(中央環境審議会会長、国際連合大学特別学術顧問)

3 プレゼンテーション　ガイド・進行:石　弘之氏(北海道大学公共政策大学院教授)
市川　勝氏(北海道大学名誉教授)
笹賀一郎氏(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター長)
渡辺義公氏(北海道大学大学院工学研究科教授)

【午後の部】 午後2時～(開場午後1時30分)

東京市民シンポジウム「人類と地球環境の明日―北の森から、北の海から」

1 基調講演:「北海道で考える」
講　師:倉本　聰氏(作家)

2 パネルディスカッション:
「人類と地球環境の明日―北の森から、北の海から」
月尾嘉男氏(東京大学名誉教授)
柿澤宏昭氏(北海道大学大学院農学研究院教授)
若土正曉氏(北海道大学低温科学研究所長)
岸　玲子氏(北海道大学大学院医学研究科教授)
コーディネーター:石　弘之氏



鈴木基之(すずき　もとゆき)
東京大学生産技術研究所教授、同所長、国際連合大学副学長などを経て、現在、放送大学教授・東京世田谷学習センター所長、国際連合大学特別学術顧問、中央環境審議会会長。地球や環境の有限性に鑑み、これまでの人間の考え方(パラダイム)を変えていく重要性を訴えている。1941年、東京都出身。



市川　勝(いちかわ　まさる)
東京大学理学系研究科博士課程を修了後、(財)相模中央化学研究所、北海道大学教授を経て、現在、北海道大学名誉教授。専門は触媒化学とナノテク。水素社会実現に向け触媒によるメタンガスや工場副生水素の高度利用(水素貯蔵・供給とベンゼンの製造)に取り組む。1942年、東京都出身。



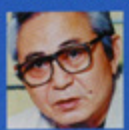
笹賀一郎(ささ　かいちろう)
北海道大学農学部附属演習林教授、同演習林林木育種試験場長などを経て、現在北海道大学北方生物圏フィールド科学センター長。専門分野は森林科学、森林環境機能学(特に防砂学・森林水文学)。流域保全および森林機能の解明と利用方法の確立を研究。1948年、宮城県出身。



渡辺義公(わたなべ　よしまさ)
カリフォルニア工科大学客員研究員、宮崎大学教授などを経て、現在、北海道大学大学院工学研究科教授。専門は環境工学、衛生工学、水処理工学。「膜技術」を用いた汚水処理や有用資源の回収など、持続可能な水・廃棄物代謝システムの構築に挑む。1945年、北海道出身。



石　弘之(いし　ひろゆき)
朝日新聞社編集委員、東京大学教授、駐ザンビア大使などを経て、現在、北海道大学公共政策大学院特任教授。専門は地球環境問題、国連環境計画や国連開発計画の上級顧問、国際協力機構参与などを歴任。地球規模で進行する環境問題に警鐘を鳴らし続ける環境ジャーナリストの草分け。1940年、東京都出身。



倉本　聰(くらもと　そう)
東京大学を卒業後、ニッポン放送を経てシナリオ作家として独立。主にテレビドラマ(「北の国から」「昨日、悲別で」「優しい時間」他多数)を手掛ける、プロのシナリオライター。役者養成のための「富良野塾」を主宰。CCC富良野自然塾理事長としてゴルフ場跡地再生にも取り組む。1935年、東京都出身。



月尾嘉男(つきお　よしお)
名古屋大学教授、東京大学教授、総務省総務審議官などを歴任。東京大学名誉教授。専門はシステム工学だがITや経済、地域活性化や環境問題などマルチに活躍中。知床や釧路湿原、四万十川など日本各地の自然豊かな土地に「環境と情報」をキーワードにした私塾を展開。1942年、愛知県出身。



若土正曉(わかつち　まさあき)
第17次日本南極地域観測越冬隊員、ワシントン大学海洋学部客員研究員、北海道大学低温科学研究所教授などを経て、現在、同研究所長。専門は海洋物理学。オホーツク海や南極海の海洋循環、海水変動のメカニズムなど、極域の海洋が世界気候に果たす役割の研究に取り組む。1944年、広島県出身。



柿澤宏昭(かきざわ　ひろあき)
ワシントン大学客員研究員などを経て、現在、北海道大学大学院農学研究院教授、森林遺法改採問題検討委員、総合地球環境学研究所共同研究員。専門は森林政策学、森林社会学。ロシアやアメリカなど北方圏諸国の森林政策に詳しく、その持続的管理や多目的利用を模索する。1959年、神奈川県出身。



岸　玲子(きし　れいこ)
北海道大学医学研究科博士課程を修了後、ハーバード大、札幌医科大学助教授などを経て、現在、北海道大学教授。専門は公衆衛生学や疫学。日本学術会議や公衆衛生に関する政府各種委員を歴任。北海道の地域特性を踏まえた調査研究により、健康障害のリスク評価や予防対策研究に取り組む。北海道出身。

8月6日(日)札幌開催　午後2時～(開場午後1時30分)　■会場:北海道大学学術交流会館

SAPPORO

参加無料

札幌市民シンポジウム「人類と地球環境の明日―北の環境現場から」

1 基調講演:「ユニバソロジ的地球環境論」
講　師:毛利　衛氏(宇宙飛行士)

2 パネルディスカッション:「人類と地球環境の明日―北の環境現場から」
齊藤誠一氏(北海道大学大学院水産科学研究院教授)
池田元美氏(北海道大学大学院地球環境科学院教授)
大崎　満氏(北海道大学大学院農学研究院教授)
喜田　宏氏(北海道大学大学院獣医学研究科教授)
丸山博子氏(丸山環境教育事務所)
コーディネーター:辻　篤子氏(朝日新聞社論説委員)



毛利　衛(もうり　まもる)
北海道大学大学院修了後、南オーストラリア州立フリンダース大学院で理学博士号取得。北海道大学助教授を経て、1985年 NASDA(現JAXA)のペイロード・スペシャリスト。1988年よりNASAのミッション・スペシャリスト。1992年と2000年、スペースシャトルに搭乗。現在、日本科学未来館館長、東京工業大学連携教授、日本学術会議会員。1948年、北海道出身。



齊藤誠一(さいとう　せいいち)
日本IBM(株)東京サイエンティフィックセンター客員研究員、(財)日本気象協会研究所研究員などを経て、現在、北海道大学大学院水産科学研究院教授。専門は、衛星海洋学、海洋生態学、水産海洋学。衛星データとITを活用した漁場予測情報サービスにより持続可能な漁業を目指す。1953年、福井県出身。



池田元美(いけだ　もとよし)
東京大学工学系研究科博士課程修了後、カナダ水産海洋省ベッドフォード海洋研究所研究員などを経て、現在、北海道大学大学院地球環境科学院長。専門は気候変動学、海洋物理学。地球温暖化、生物多様性、水資源、食糧生産、エネルギー等、諸問題解決に向けた最適解提示を目指す。1946年、東京都出身。



大崎　満(おおさき　みつる)
北海道大学農学研究科博士課程修了後、国際コムギ・トウモロコシ改良センター(メキシコ)客員研究員などを経て、現在、北海道大学大学院農学研究院教授。植物の根の働きやその周辺に存在する微生物の研究を通じて、肥料や農薬に頼らない持続的農業の研究や循環型環境修復に取り組む。1950年、北海道出身。



喜田　宏(きだ　ひろし)
北海道大学獣医学研究科修士課程修了後、武田薬品工業株式会社技術研究職、北海道大学助教授などを経て、現在、同大学院獣医学研究科教授。人獣共通感染症リサーチセンター長を兼務。「インフルエンザ制圧のための基礎的研究」で日本学士院賞を受賞するなど、インフルエンザ研究の第一人者。1943年、北海道出身。



丸山博子(まるやま　ひろこ)
北海道教育大学卒業後、野生生物情報センターなどを経て、1992年に丸山環境教育事務所を設立。自然生態系を手本とした環境教育の研究や実践に止まらず、道教育大や道工業大で教鞭をとる。道や札幌市の各種委員をつとめ、広く市民協働のまちづくりを目指し、活動を進める。北海道出身。

託児・手話通訳ご利用いただけます。
(札幌開催のみ)

参加応募要項

参加ご希望の方は、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、ご希望のプログラム区分(右記参照)を明記の上、ハガキかFAXでお記の宛先までご応募ください。また、託児・手話通訳を希望される方はその旨をご記入ください。

●**応募先**／ハガキ:〒104-8691　東京都京橋郵便局私書箱56号「北大SSフォーラム」係
FAX:「北大SSフォーラム」事務局
03-6226-5651
(お問い合わせは「北大SSフォーラム」事務局
TEL:03-6226-6682まで※土日祝日を除く平日10:00～18:00)

●**応募締切**／7月18日(火)消印有効

●**当選発表**／厳正なる抽選の上、招待状の発送をもって発表にかえさせていただきます。

※プログラムの区分
①／プレゼンテーション(午前の部)+東京市民シンポジウム(午後の部)
②／プレゼンテーション(午前の部)のみ
③／東京市民シンポジウム(午後の部)のみ
④／札幌市民シンポジウム

●**アスパラクラブのホームページからもご応募いただけます。**
http://aspara.asahi.com/
(会員登録が必要です)

※ご応募いただきました個人情報は、本フォーラムの申込状況の管理及び招待状の発送、託児・手話サービスを希望される方への確認以外の目的には使用いたしません。

主催:北海道大学、朝日新聞社

後援:文部科学省、環境省、経済産業省、北海道、札幌市、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道環境財団

北海道大学サステナビリティー・サイエンス・フォーラムを開催

本学と朝日新聞社及び北海道テレビ放送は，それぞれが課せられた社会的責務を，より効果的かつ公正に果たすことを目的に提携・協力を進めることで平成17年７月に基本合意をしました。この基本合意の下での提携・協力を「ポプラプロジェクト」と称し，今回，その一環として「北海道大学サステナビリティー・サイエンス・フォーラム」を開催しました。

８月５日（土）は東京会場の有楽町朝日ホールで，午前の部として中村総長のあいさつにはじまり本学関係者によるプレゼンテーションが行われました。午後は作家の倉本聰氏による基調講演に引き続き「人類と地球環境の明日－北の森から，北の海から」と題してパネルディスカッションが行われました。当日の東京は気温，湿度とも高いにもかかわらず午前，午後合わせておよそ1,000名の参加があり，プレゼンテーションや講演に熱心に耳を傾けていました。

翌日の８月６日（日）は本学学術交流会館で開催され，宇宙飛行士の毛利衛氏の講演に引き続き「人類と地球環境の明日―北の環境現場から」と題してパネルディスカッションが行われました。札幌会場も定員310名を上回る参加がありました。

なお，講演の概要は後日，「持続可能な開発」国際戦略本部のホームページに掲載されます。



あいさつをする総長



東京会場の参加者



札幌会場のパネルディスカッションの様子

（「持続可能な開発」国際戦略本部・学術国際部国際企画課・総務部広報課）

「北海道大学サステナビリティー・サイエンス・フォーラム」

実 施 報 告 書



開催期日(場所):2006年8月5日(東京)・6日(札幌)

北海道大学
朝日新聞社

★★ポプラプロジェクトとは

2005年7月、北海道大学と朝日新聞社、HTB北海道テレビ放送は、「環境」を主要テーマとした提携・協力に関する基本合意を締結しました。この合意に基づき展開される様々な事業は、北大の象徴であるポプラ並木に因み「ポプラプロジェクト」と名付けられ、環境に関する研究成果の情報発信をはじめ、調査活動やイベントなど幅広い範囲で、三者が協力していくことになりました。

★★「北海道大学サステナビリティー・サイエンス・フォーラム」とは

今夏、北海道大学は国際発信能力を高める「大学国際化プロジェクト」の一環として、サステナビリティーをメインテーマに「持続可能な発展国際シンポジウム」を開催しました。世界24ヶ国400名以上の参加者を得たこの国際シンポジウムの開催を記念し、「ポプラプロジェクト」の一環として一般市民に広く開放されたイベントを開催すべく、「北海道大学サステナビリティー・サイエンス・フォーラム」は企画されました。北海道を代表とする北方圏の自然力と、北大が130年にわたって培ってきた知の資産、そこから、人類の未来に貢献できる知見や提言を、朝日新聞を通じて全国に向け発信すべく、東京と札幌で開催しました。

★★告知記事・PR

※1月6日付社告（北海道支社版朝刊）


北大と環境フォーラム

※6月18日付社告（全国版朝刊）


フォーラム「人類と地球環境の明日」

※6月16日付社告（北海道支社版朝刊）


人類と環境 8月にフォーラム

北大・本社共催 5日東京、6日札幌

※8月5日付当日記事（北海道支社版朝刊）


豊かな北の自然 役割を考える

北大・朝日新聞社がフォーラム

※8月5日付当日記事（東京本社版朝刊）


森林火災や地震研究 着々と

★★記念広告（8月5日、6日付朝日新聞朝刊全国版）


―地球環境時代における北海道大学の役割―

「北大リサーチ&ビジネスパーク構想」への期待

"Be ambitious!"

※全5段告知広告（東京本社版用:6月22日、7月2日、16日付朝刊、7月6日付夕刊に掲載）


北海道大学サステナビリティー・サイエンス・フォーラム

人類と地球環境の明日―北の森から、北の海から―

8月5日(日)開催

※全5段告知広告（北海道支社版用:6月24日付朝刊ほか、24回掲載）


北海道大学サステナビリティー・サイエンス・フォーラム

人類と地球環境の明日―北の森から、北の海から―

8月6日(日)開催

「人類と地球環境の明日 ―北の環境現場から」

★★開催概要

【北海道大学サステナビリティー・サイエンス・フォーラム】

主催：北海道大学、朝日新聞社
後援：文部科学省、環境省、経済産業省、北海道、札幌市、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道環境財団

【実施プログラム】

1）北大プレゼンテーション「環境技術が開くサステナビリティー」 （→報告書5ページ）

会　場：有楽町朝日ホール（来場者数480名）
日　時：2006年8月5日（土）午前10時30分～12時40分
① 基調講演：「環境技術のフロンティア」　鈴木 基之（国連大学特別学術顧問）
② 北大プレゼンテーション
市川　勝（北海道大学名誉教授）「触媒技術による資源とエネルギーの再生」
笹 賀一郎（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター長）「森林における環境保全研究の最前線」
渡辺 義公（北海道大学大学院工学研究科教授）「水循環と希少資源回収の最新技術」
ガイド・進行：石　弘之（北海道大学公共政策大学院特任教授）

2）東京市民シンポジウム「人類と地球環境の明日―北の森から、北の海から」 （→報告書3ページ）

会　場：有楽町朝日ホール（来場者数580名）
日　時：2006年8月5日（土）午後2時～5時
① 基調講演：「北海道で考える」　倉本　聰（作家）
② パネルディスカッション「人類と地球環境の明日―北の森から、北の海から」（1時間50分）
出演者：
月尾 嘉男（東京大学名誉教授）
柿澤 宏昭（北海道大学大学院農学研究院教授）
若土 正曉（北海道大学低温科学研究所長）
岸　玲子（北海道大学大学院医学研究科教授）
コーディネーター：石　弘之（北海道大学公共政策大学院特任教授）

3）札幌市民シンポジウム「人類と地球環境の明日―北の環境現場から」 （→報告書4ページ）

会　場：北海道大学学術交流会館（来場者数310名）
日　時：2006年8月6日（日）午後2時～5時15分
① 基調講演：「ユニバソロジ的地球環境論」　毛利　衛（宇宙飛行士）
② パネルディスカッション「人類と地球環境の明日―北の環境現場から」
出演者：
齊藤 誠一（北海道大学大学院水産科学研究院教授）「リモートセンシングによる海洋生態系のモニタリング」
池田 元美（北海道大学大学院地球環境科学院教授）「地球よ、温暖化させても住まわせてくれますか?」
大崎　満（北海道大学大学院農学研究院教授）「食糧問題と持続可能な農業への転換」
喜田　宏（北海道大学大学院獣医学研究科教授）「環境問題としての鳥インフルエンザ」
丸山 博子（丸山環境教育事務所）「環境教育の20年」
コーディネーター：辻　篤子（朝日新聞社論説委員）

※敬称略

※講演の詳細は、北海道大学のホームページ http://www.hokudai.ac.jp/huisd でご覧いただけます。

★★フォーラム採録の編集特集 （8月23日付朝日新聞朝刊全国版） 左面

北海道大サステナビリティー・フォーラム 人類と地球環境の明日



作家 倉本聰氏

一枚でも葉をつくろう

北の恵 忍び寄る影

東京会場 5日

パネリスト



月尾嘉男 東京大学名誉教授



若土正曉 北海道大学低温科学研究所長



檜山哲哉 北海道大学大学院農学研究院教授

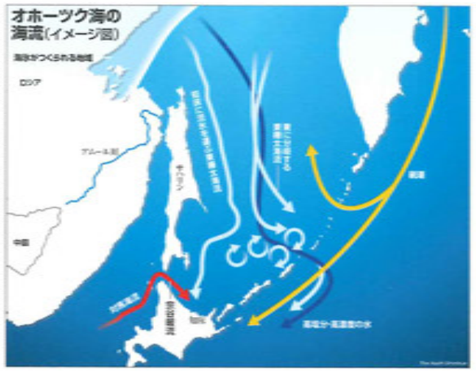


原田尚美 北海道大学大学院農学研究院教授



石塚之 北海道大学大学院公共政策学連携研究部特任教授

月尾氏 経済と一体の再生を 檜澤氏 森林回復で地域も活性



若土氏 栄養の宝庫の海も温暖化 原氏 療養や自立支援にも一役



北海道大サステナビリティー・フォーラム 人類と地球環境の明日



宇宙飛行士 毛利衛氏

人類共通の言葉は科学

「矢印」探し 命守る

札幌会場 6日

パネリスト



安部琢哉 北海道大学大学院水産科学研究院教授



池田元美 北海道大学大学院地球環境科学研究院教授



大岩渉 北海道大学大学院農学研究院教授



吉田丈 北海道大学大学院医学研究科教授



丸山康子 丸山環境総合計画研究室



コーディネーター 辻篤子 朝日新聞社論説委員

安部氏 海の健康は必須 池田氏 全体見渡す姿勢で 大岩氏 潜在能力引き出そう

吉田氏 急激な変化が共生崩す 丸山氏 生態系の「物差し」持って

Do 科学

汚染・温暖化・森林火災…高まる危険



★★報道記事

※8月6日付東京会場報告記事（北海道支社版朝刊）

「北」の視点で環境語る

北大・本社フォーラム

シンポジウムに先立ち、北大の研究者3人が、環境にかかわる研究成果を、発表した。

「持続可能な発展」討議

東京会場

メタンから水素を製造

森林修復技術を体系化

下水のリン回収可能に

※8月7日付
国際シンポジウム紹介記事
（北海道支社版朝刊）

研究者の情報交換
組織設立 あす提案

★★当日の模様



【東京会場】　中村総長あいさつ



【東京会場】　北大プレゼンテーション



【東京会場】　資料コーナーで北海道大学の情報収集をする参加者



【札幌会場】　パネルディスカッション

★★応募総数

① 東京会場（午前・午後通し）1,670名
② 東京会場（午前のみ）185名
③ 東京会場（午後のみ）629名
④ 札幌会場863名
※会場定員（東京638名、札幌310名）を勘案し、聴講券を発送した。

★★参加者数／参加者属性

① 参加者数：東京会場（午前）480名、同（午後）580名、札幌会場310名
② 参加者の構成（アンケートより）

【年齢】 いずれの会場も60代がもっとも多く、次が50代、70代以上の順。札幌会場はやや平均年齢は低くなっている。環境関連のイベントとしては、若年層の参加が比較的多かった。

【職業】 全体的に幅広い層からの参加が得られたが、会社員が多く、次いで主婦、自営業の順で参加が多かった。東京は専門的分野のプレゼンテーションもあったため、会社員の比率が高かった。札幌は会社員の比率が低く、教育関係者や学生の比率が高かった。

●年齢構成

年　齢	東京午前	東京午後	札　幌
10代	3.1%	1.4%	3.8%
20代	3.5%	3.1%	6.3%
30代	2.3%	2.7%	6.3%
40代	4.6%	5.5%	10.7%
50代	18.4%	23.0%	21.4%
60代	48.7%	43.5%	27.4%
70代以上	17.2%	17.4%	20.1%
その他・不明	2.2%	3.4%	4.0%

●職業構成

職　業	東京午前	東京午後	札　幌
会社員	29.1%	28.7%	16.6%
公務員	3.5%	4.8%	3.8%
自営業	8.8%	8.6%	8.8%
主婦（夫）	10.7%	9.6%	9.4%
NPO、NGO	3.5%	4.8%	3.1%
教育関係者	3.8%	5.1%	13.2%
学生	5.4%	3.1%	9.4%
その他・無職	35.2%	35.3%	36.7%

③ 認知経路
東京会場は8割強が朝日新聞の紙面による告知により、このフォーラムに参加した。札幌会場は北大ホームページや、実際に札幌市内で掲示、配布したポスター・チラシにより、フォーラムを認知した割合が高くなっている。

★★来場者の評価 （アンケート結果より）

【回答数】 東京午前が261通、東京午後が292通、札幌会場は159通のアンケートが得られた。

【評　価】 概ね7割がプラスの評価。不満は1割程度に止まる。

●評価

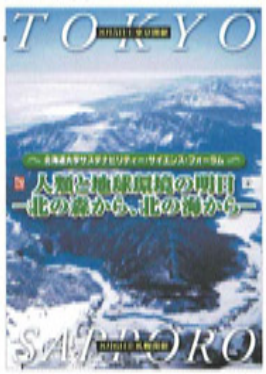
評　価	東京午前	東京午後	札　幌
満足	36.0%	37.3%	40.3%
まあ満足	35.6%	29.8%	33.3%
どちらとも言えない	10.3%	7.9%	7.6%
やや不満	8.1%	5.1%	8.2%
不満	3.1%	4.1%	3.8%
回答なし	6.9%	15.8%	6.8%

【北大の環境（技術）への取り組みへの関心の高まり】
参加前には北大の環境への取り組みを認知していたのは、東京会場では2割強、札幌でも4割強だったが、参加後はどの会場も9割前後の参加者が「関心が高まった」と回答している。

※ポスター



※チラシ表



※チラシ裏



※レジュメ　※パンフレット

